

高田馬場分水路（神田川・妙正寺川）

施設概要

高田馬場分水路は、河川沿いの高度利用が進み、河道拡幅による河道整備が困難であった神田川の中流部において、早期の治水安全度向上を図ることを目的として整備した 4 つの分水路の一つです。神田川にはこのほか、江戸川橋分水路、水道橋分水路、お茶の水分水路の 3 つの分水路があります。

この分水路は、妙正寺川の高水と神田川からの高水の一部を受け、高戸橋上流にて再度神田川本川に合流します。全区間が神田川沿いの都道 8 号線（通称：新目白通り）の地下に敷設されています。

整備に当たっては、昭和 43～57 年度にかけて、道路築造と同時に 1,460m を整備しました。



分水路呑口

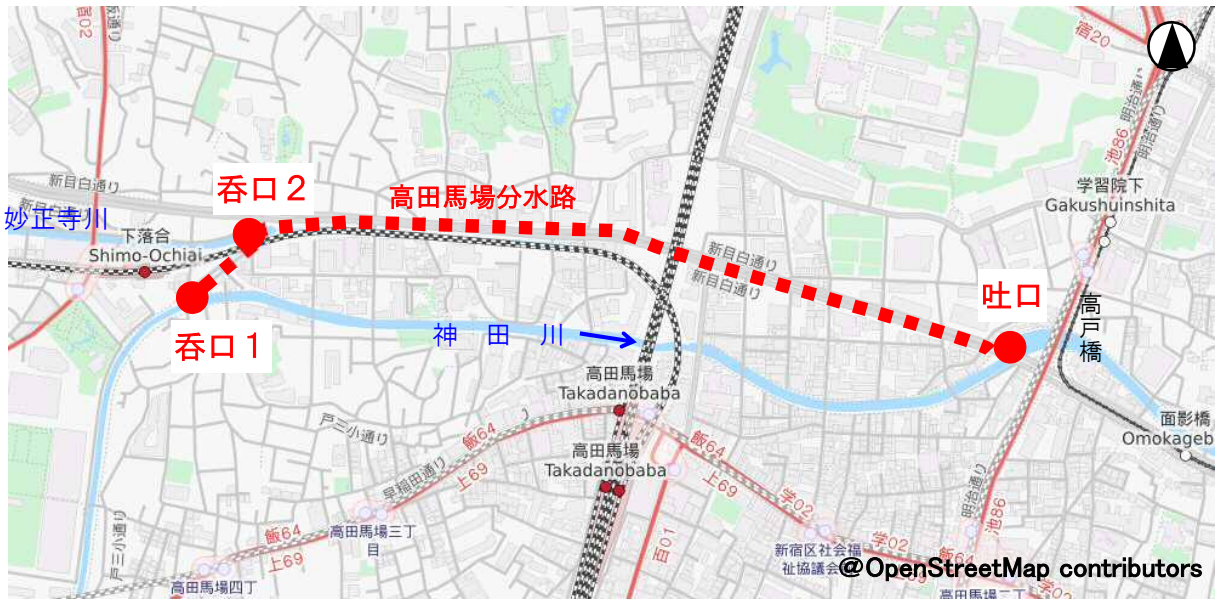


分水路吐口

施設諸元

位置	豊島区高田三丁目～新宿区下落合一丁目	
完成年度	昭和 57 年度	
区間	高戸橋上流～新堀橋上流	
延長	1,460m	
断面構造	高戸橋～妙正寺川合流点	□6.65×66.0m
□：矩形、(縦×横：内空)	妙正寺川合流点～新堀橋	□6.00×68.0m

位置図



●呑口1位置のQRコード



●呑口2位置のQRコード



●吐口位置のQRコード

